

| 2016年度 後期 | | リフレクションペーパー | | | | | |
|-------------------|--|--------------|-----------|------|-------|-----|-----|
| 学科名 | 生物環境化学科・電気通信工学科・建築・デザイン学科・情報学科・経営コミュニケーション学科・経営ビジネス学科 | | | | | | |
| 科目名 | 教育心理学 | | | | | | |
| 科目区分 | 教職科目 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 1年次後期 | | |
| 必修・選択の別 | 選択(教職必修科目) | | | | | | |
| 担当者 | 小林 美緒 Mio KOBAYASHI | | | | | | |
| 授業の到達目標(シラバスから) | <ul style="list-style-type: none"> ・教育場面における教育心理学の必要性を説明できる。 ・発達理論および主要な発達用語について説明できる。 ・学習理論および主要な教授学習法について説明できる。 ・パーソナリティ理論および人格の測定法について説明できる。 ・教育相談の方法を理解し、代表的な心理療法について説明できる。 ・学級集団の特性および集団測定法について説明できる。 | | | | | | |
| 日程と内容 | 9/12 導入～授業の進め方と概要の説明、成績評価法の提示、教育心理に含まれる領域とその意義～ 9/26 心理学の歴史と教育心理学の成立、教育心理学の方法 10/3 発達～発達の捉え方、遺伝か環境か論争～ 10/15 発達～発達の様相、発達段階の諸説①～ 10/17 発達～発達の様相、発達段階の諸説②～ 10/24 発達～愛着理論、発達に関連するキーワード～ 10/31 学習～学習理論、記憶のメカニズム～ 11/7 学習～動機づけ、教授学習法～ 11/14 パーソナリティ～パーソナリティの定義、パーソナリティ理論～ 11/21 パーソナリティ～心理検査によるパーソナリティの測定～ 11/28 知能～知能の捉え方、知能検査～ 12/5 不適応行動～欲求不満、葛藤、適応機制、問題行動～ 12/12 心理療法～カウンセリングの基本的技法、心理療法理論～ 12/19 教育評価～教育評価の意義、教育評価の方法～ 1/16 学級集団～集団の特性、集団の発達プロセス、集団測定法～ (1/23 最終試験) | | | | | | |
| 成績評価基準 | 定期試験 | 80% | 実技 | | | | |
| | 臨時試験 | | 部外評価 | | | | |
| | 報告書・レポート | 20% | プレゼンテーション | | | | |
| | 課題 | | 計 | 100% | | | |
| | 演習 | | | | | | |
| 授業到達目標の達成度 | 今年度も心理学の初学者が大半であることを考慮して、まずは基礎・基本の知識の定着を重視した授業構成と進度を心掛けた。最終評価として8割超の学生が合格となった。アンケート結果においても、授業の内容理解および興味の高まりの項目において全員が3以上と評定しており、授業目標は一定の基準に達していると考えられる。 | | | | | | |
| 反省点 | 授業中にやる気のある学生とそうでない学生の差が見られたが、最終試験の結果にもそれが顕著に反映されていると感じたため、授業途中での動機づけをより一層行なう必要があると感じた。また、アンケートの予習・復習の評価において時間が十分とは言えない学生も見られたため、毎回の予習・復習をより明示していきたい。 | | | | | | |
| 来年度の計画 | 基本的な到達目標および授業内容は同一とし、引き続き来期も中間テストによる途中の評価を積極的に位置付け、知識の定着と教員に向けての意識の向上を図りたい。また、より学生の疑問にフィードバックできるよう、来年度は感想カードに記入する回数をより増加させたい。 | | | | | | |
| 授業評価アンケートに対するコメント | 自由記述では「説明が分かりやすかった・(声が)聞き取りやすかった・板書が見やすかった」といった授業方法自体への肯定的な評価が多く見られたため、これらの視聴覚上の分かりやすさをこれからも授業の持ち味として心掛けて維持していきたい。 | | | | | | |
| 履修登録者数 | 53名 | 定期試験 受験者数 | 51名 | 合格者数 | 42名 | 合格率 | 82% |